

施工 Q-15

デッキ受け材

柱周り

納まり例

下図のような柱周りの納まり部で、柱幅と梁幅の差が少ない場合でもデッキプレート受け材は必要ですか。

施工 A-15

デッキプレート溝部が柱型部に掛かるときに必要です。

これは、デッキプレートの割付けによりますので、フラットバー（以下、FB）等の受け材の補強が不要な最小寸法はないと考えてください。下図のような納まりでは、敷き始めとなるデッキプレート幅方向の梁へのかかり代が 50mm の場合、端部の溝幅は 60mm 程度、山部は 180mm 程度です。ここで、柱と梁幅の差が 190mm 以下になると受け材の部分に溝部はありませんので、FB 受け材は事実上不要となります。

しかし、デッキプレート敷き終わりに調整板を用いる場合、デッキプレート長手方向端部の溝部の受けが必要になりますので、柱と梁幅の差がたとえ 50mm でも受け材は必要です。

以上の通り、デッキプレート受け材の要否はデッキプレート溝部の位置によって判断します。

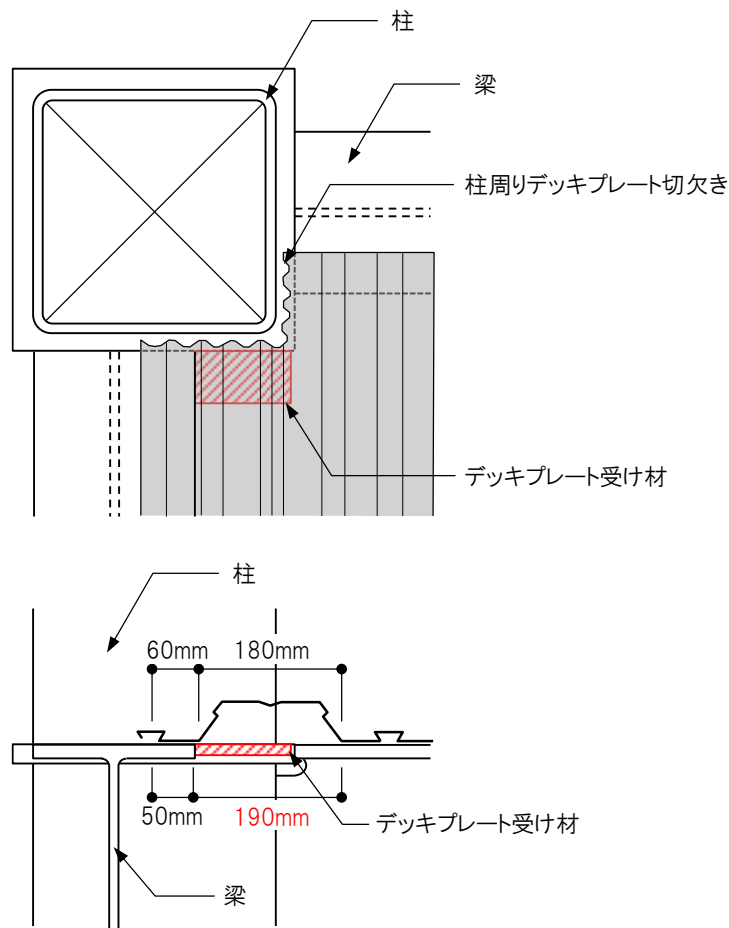


図 1 柱周りデッキ受け材例